

第5学年 理科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「天気の変化(2) ○ 台風と気象情報」 教材名「天気の変化(2) ○ 台風と気象情報」

2 単元の目標

天気は雲の量や動きと関係し、気象情報から変化を予想できるが台風による変化にも注意が必要であることを理解し、実物の観察・実験と記録を扱う技能を身に付ける。「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(B(4))

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①天気は雲の量や動きと関係し、気象情報から変化を予想できるが台風による変化にも注意が必要であることを理解している。 ②実物の観察・実験と記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。	①天気の変化(2) ○ 台風と気象情報の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「天気の変化(2) ○ 台風と気象情報」は、第5学年のB(4)を手掛かりに、自然の事物・現象を調べる単元である。中心となる理解は、天気は雲の量や動きと関係し、気象情報から変化を予想できるが台風による変化にも注意が必要であることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、台風前後の天気の変化を資料で比べるところから始め、先の天気を根拠を付けて予想する活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には気象情報の使い方と安全な行動を整理することで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本時では「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」を中心の問いに据える。これまでに集めた観察・実験の記録を使って、次の比較と考察を行う。気象庁の時刻をそろえた台風位置・雲画像・雨の分布を地図で同じ位置で比較する。続く時刻の図を伏せて予想し、実際の図で確かめる。台風を中心だけでなく広い範囲の雨にも目を向ける。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。いつも西から東へ同じように進むという説明には、台風の実際の進路を順にたどらせる。予想が外れたことを失敗にせず、雲や雨のどの変化を見落としたかを記す。

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。台風接近時に屋外で観察しない。避難情報の判断を児童の授業予想に委ねず、公式情報と学校の対応に従う。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○台風前後の天気の変化を資料で比べる。 ○気象情報の時刻と位置を確認する。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	2	○進路と雲・雨の分布を関連付ける。 ○先の天気を根拠を付けて予想する。	知①・知②（活動の観察・記録）
第3次	3 （本時を含む）	○実際の変化で予想を検討する。 ○気象情報の使い方と安全な行動を整理する。 ○記録を根拠に、中心の問いへの自分の説明を確かめ直す。	思①（記録を用いた説明）・態①（説明を見直す過程）

6 本時の指導（3／3（配当案））

（１）本時の目標

「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」について、資料や記録のどの事実を根拠にしたかを示し、自分の考えを説明できる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○本時で使う記録を見て、問い「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」を確かめる。 【めあて】根拠の記録を示して、自分の説明を確かめ直そう。 ○一人で今の考えと、確かめたい点を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・この記録を使って、自分の考えを説明したい。 ・前の考えと合わないところがある。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・台風接近時に屋外で観察しない。避難情報の判断を児童の授業予想に委ねず、公式情報と学校の対応に従う。
展開 （ 分）	○これまでに集めた観察・実験の記録を使って、次の比較と考察を行う。気象庁の時刻をそろえた台風位置・雲画像・雨の分布を地図で同じ位置で比較する。続く時刻の図を伏せて予想し、実際の図で確かめる。台風の中心だけでなく広い範囲の雨にも目を向ける。 ○「どの部分を比べて、そう考えましたか」 ○根拠の箇所を指し示して説明し、相手の説明との違いを聞く。 ○資料から分かることと、まだ分からないことを分けて書き直す。 〈予想される児童の反応〉 ・進路が違くと雨や風の場所も違う。この予報が出た時刻も見たい。 ・この記録のここが、そう考えた根拠になる。	・いつも西から東へ同じように進むという説明には、台風の実際の進路を順にたどらせる。予想が外れたことを失敗にせず、雲や雨のどの変化を見落としたかを記す。 ・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思① 「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。（個人の記録と説明、交流後の修正理由から見取る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる観察結果とともに書く。 【まとめ】天気は雲の量や動きと関係し、気象情報から変化を予想できるが台風による変化にも注意が必要である。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・最初の説明に、根拠にした記録を書き足せた。 ・まだ確かめていないところは、次の問いとして残した。	・まとめは得られた記録の範囲に限定する。予定どおりの結果が出なければ条件と方法を見直し、実測結果を作り替えない。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

（３）板書計画

上段に問い「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」。左に児童の最初の考え、中央に根拠として選んだ記録や資料、右に確かめ直した説明を置く。記録には対象・条件・時期を添え、同じ観点で比較する。下段のまとめは「天気は雲の量や動きと関係し、気象情報から変化を予想できるが台風による変化にも注意が必要である」。確認できた事実と残った疑問を別欄にし、実測していないことを書き足さない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

